

台湾内政、日台関係をめぐる動向（2011年11-2012年1月上旬）

総統選挙、立法委員選挙直前の政治情勢と 「日台開放天空」の署名

石原忠浩（台湾・政治大学国際関係センター助理研究員）
（元（財）交流協会台北事務所専門調査員）

2011年11月から2012年1月までの総統、立法委員選挙直前までの動向を中心に紹介する。候補者による政見討論会、大型選挙キャンペーンが行われ、選挙戦終盤は盛り上がりを見せた。11月中旬には馬英九総統、蔡英文民進党主席の支持率が拮抗する時期もあったが、多くの世論調査では馬総統が蔡主席を僅かながらリードしているが、最後まで予断を許さない状況である。立法委員選挙に関しては、国民党が第1党の地位を維持することが有力視されている。（選挙直前情報）

11月10日、日台間で民間航空業務の維持に関する書簡が交換された。右取り決めは、首都圏路線を含む日台間のオープンスカイの実現として航空会社の就航便数の制限を撤廃することとなり、台湾の航空会社は人気路線の増便及び新定期路線の開設を希望するなど歓迎が表明された。

1. 総統選挙関連

中央選挙委員会は12月7日に委員会議を開催し、次期総統副総統選挙にかかる立候補の届出に関し、馬呉ペア、蔡蘇ペア、宋林ペアの3組が候補資格を有しているとの案件を採択した。¹ また同委員会は、3組の候補者の外国籍の有無につき外交部を通じて調査したところ、林瑞雄候補がかつて有していた米国籍は、2011年9月27日に放棄されたことが確認されたほか、外国籍所有者はいなかったと強調した。

12月3日から1月6日まで、メディア主催によるテレビ討論会、中央選挙委員会主催によるテレビ政見発表会が行われた。以下、簡潔に議論の要点などを紹介する。

（1）メディア共催による総統副総統候補テレビ討論会の実施

総統候補による第一回討論会（12月3日）

次期総統副総統選挙にかかる第一回テレビ討論

会が公共テレビ、『中央通信社』、『聯合報』、『中国時報』、『自由時報』、『蘋果日報』の共催で12月3日に公共テレビで開催された。当日は土曜日の午後2時という時間帯にかかわらず複数のテレビ局が2時間半にわたる実況生放送を行ったほか、当日夕方夜のテレビ番組では特集を組み、翌日の大手新聞も一面から四・五面まで独占する破格の扱いで同討論会を報道した。²

総統選挙に出馬する馬英九総統、蔡英文民進党主席、宋楚瑜親国民党主席³の3名は順番に、政治理念、兩岸関係、経済問題、執政経歴、司法改革などの議題で攻防を繰り広げた他、最近話題となった「陳盈助事件」⁴、「果物価格の暴落」などの議題についても議論が交わされた。筆者が全体を見て感じたのは、自己主張、マスコミ関係者からの質問を含め、一貫していたのは、馬蔡両氏の攻防であり、宋氏が馬蔡の両名の批判を展開する流れであった。かかる動きは、馬蔡両名が相手を最大のライバルとみなしている証左であり、馬蔡両名は表面上、宋氏を尊重しているようにふるま

表1 第1回討論会における各候補の主な発言

	馬英九	蔡英文	宋楚瑜
他候補に対する一言	馬英九は国民党を変えた、しかし民進党は蔡英文を変えた。	今選挙は2012年の総統選挙であり、今選挙で戦うのは私であり、陳水扁ではない。	台湾は失われた世代、政府を経験し、国民を失望させた。国民、民進両党は、ともに失政の責任を前政権に押し付けている。
兩岸関係	国民は、民進党が執政した時のような緊張した兩岸関係に戻りたいのだろうか？	92年コンセンサスは存在しない、台湾コンセンサスの形成こそ兩岸関係を安定させる。	馬英九総統が推進したECFAの重要な努力は前向きに肯定できる。
外交	国民党政権の3年間に、国交国は減らず、ビザなし渡航できる国は124国に達した。	世界から台湾を眺め、また台湾人を世界に進ませる。	当選後の外交政策は、国民、民進両党と意思疎通をする。
クリーン	国民党の執政期間中、政務官は一人も汚職で起訴されていない、執政直後からクリーンな政府の確立を打ち出している。	私の執政チームは、超党派であり、才能に応じて採用する。	司法、教育、農業、健康保健、税制等一系列の改革を提出、クリーンな政府を再建する。
貧富の差	台湾史上最も貧富の差が拡大したのは、民進党政権二年目のことである。	貧富の差の最大の拡大は、馬英九政権下で発生した。	貧富の差の拡大問題は、「基本的問題」、「緊急手当て」の双方の角度から対応すべきである。
経済発展	民進党政権時代の8年間に台湾はアジアの模範生から四つの小竜の最下位に甘んじるようになった。	新たな輸出市場を開拓し、地場産業と連結させ、内需市場を拡大させる。	生活、生態、生産の三つの生産業を発展、結合させ、台湾を幸福にさせる。

資料元：「三分鐘看辯論」『聯合報』（2011年12月4日）頁1。

いながらも、実際には無視することで同人を周辺化させる狙いがあるとの指摘がされたが非常に的を得たものと感じた。⁵

今討論会の各候補の発言を『聯合報』が簡潔に整理した結果は表1の通り。

表1を補足説明すると、「他候補に対する一言」では、馬総統は蔡主席に対し、民進党は陳水扁政権時代に汚職があり、また蔡主席も過去の汚職で起訴されている過去の政務官を選挙チームの幹部に重用していることに疑義を呈し、民進党が従来クリーンであった蔡女史をも変えてしまったと指摘したことに対し、蔡主席は「馬総統は過去の民進党政権を批判しているが、次期選挙で戦うのは陳水扁ではなく自分（蔡）である」と反駁した。「兩岸関係」に関しては、馬総統が執政3年あまりの業績を誇り、民進党政権の成立は兩岸関係の後

退をもたらすなどと指摘したのに対し、蔡主席は中国政府が兩岸関係の対話継続の前提条件としている「92年コンセンサス」は存在しないと強調するとともに、中国一辺倒の対外政策の展開を批判し、中国だけではなく国際社会との関係強化を通じて中国と向かい合うべきであるとして馬総統の対中傾斜政策を批判した。

討論会終了後に、各党はそれぞれ記者会見を開催したが、プレスリリースを唯一発出した蔡主席は、「討論会で言及した『台湾コンセンサス』は他候補の重視と議論の対象となり、非常に興奮したと語るとともに、『台湾コンセンサス』は台湾内部における政策上の整合のプロセスであり、同時に総統の責任でもあるので、来年の総統選挙で当選後に馬総統と宋主席を招き、兩岸関係につき議論を行い、兩岸関係に関するコンセンサスを凝集し

たい」と述べた。また今討論会については、「台湾の民主主義の光栄と誇りであり、民主はすでに台湾住民の共同生活の方式になった」と指摘した。⁶

副総統候補による討論会（12月10日）

12月10日、副総統候補3名（呉敦義（国民党）、蘇嘉全（民進党）、林瑞雄（無所属））による討論会が実施された。呉候補は、馬政権の施政を誇るとともに陳水扁政権時代の施政を腐敗した政権として厳しく批判した。蘇候補は、国民党政権が当初掲げた政権公約を履行できなかつたと批判するとともに、蔡主席が率いる将来の執政チームのクリーンさを保障すると強調した。林候補は藍緑両党（国民党、民進党）の悪質な権力闘争を批判した。⁷ また同討論会の三名のパフォーマンスについて誰が優れていたかという、『聯合報』の調査では呉40%、蘇30%、林9%という結果になった。⁸ 一方で、『聯合報』と同様に国民党寄りの論調である『TVBS』テレビの調査では、視聴者は蘇39%、呉38%、林6%との評価を下した。⁹ また同テレビの総統候補の支持率調査では、馬39%、蔡39%、宋6%と両者の支持率が再び並んだと報じた。¹⁰

総統候補による第二回討論会（12月17日）

12月17日に開催された総統候補による第二回目の討論会では、住宅政策、税制改革、「宇昌案」（注：国民党立法委員が、蔡主席は行政院副院長時代に特定の企業に会社設立、政府資金の出資などで便宜供与をし、蔡主席が行政副院長を退任後、同企業の理事長に就き、蔡主席の家族が株式投資で利益をあげた違法性を指摘した事件。）、社会福祉政策、司法改革などにつき議論が交わされたが、『中国時報』、『聯合報』は12月に入って国民両党間で火花を散らしている「宇昌案」をめぐり、馬蔡両名が攻防を展開した点を大きく報じた一方で、¹¹ センセーショナルな記事、写真が売りの「蘋果日報」は大都市住民が最も不満を有している不

動産価格の高騰問題に対する議論を取り上げ、同議論の中で蔡主席が不動産の売買に対して実際の取引価格に準じた課税をすることで不動産価格の高騰を抑える政策を提案したことを大きく取り上げるなど、台湾庶民が一番関心のある話題について大きく報じたのが際立った。¹²

討論会後の候補者のパフォーマンスに関する調査では、『聯合報』が馬36%、蔡29%、宋17%との結果であったのに対し、『中国時報』は蔡32%、馬29%、宋13%という異なる結果が出た。¹³ 支持率調査でも、『聯合報』は馬41%、蔡33%、宋10%と前回調査と比較して馬と蔡の差が2%広がったのに対し、『中国時報』では馬38.5%、蔡37.7%、宋7.7%と蔡が馬に肉薄したの結果を報じた。¹⁴ 支持率調査の異なる結果について、各陣営はそれぞれ異なるコメントを出した。馬陣営は、「マスコミの世論調査は起伏があり、参考するにとどめる」旨指摘した一方で、蔡陣営は「現政府は国民の心をつかんでいない」と指摘するとともに、「過去の経験では、メディアの支持率調査で民進党候補が数パーセント負けている場合、実際の投票の結果は民進党が逆転する」と自信を見せた。一方、宋陣営は「偽の世論調査が氾濫しており、宋主席自身も2000年の選挙では被害者となっており、信用しない」と三者三様の回答となった。¹⁵

（2）中央選挙委員会主催によるテレビ政見発表会

総統候補による第一回テレビ政見発表会（12月23日）

12月23日、選挙事務の主管機関である中央選挙委員会主催による総統候補のテレビ政見発表会が開催された。12月上旬以降、メディア主催の総統候補、副総統候補による政見討論会はすでに実施されていたものの、今回の討論会では、两岸関係、馬蔡双方が互いに特定企業に不当な便宜供与を与えていたことを取り上げ応酬するなど白熱し

た内容になった。¹⁶

馬は自身が得意とする兩岸関係に関し、「自身の業績は兩岸関係の安定にある」として、過去3年の業績に関し「兩岸の平和は天から授かったものではなく、平和があつてこそ商機がある」と誇るとともに「民進党が『92年コンセンサス』を承認しないことは、兩岸関係を不安定なものに陥れることになり、兩岸関係への悪影響は計り知れない」と自身の施政による「平和カード」を打ち出し、民進党の主張を批判した。蔡主席は、「現政権の兩岸関係の成果は台湾の主権を犠牲にして得たものであり、『92年コンセンサス』の主張は中国政府の主張に唱和するものであり、馬総統の主張する兩岸平和協議の主張は国民を不安にさせている」と主張した。¹⁷

国民党陣営が、蔡主席のクリーン度に疑義を呈している「宇昌案」に関して、蔡主席は、「今案件はスキャンダルではなく、不当な利益供与もなく、国民党は明確な証拠を出すべき」と反駁するとともに、馬総統が台北市長時代に市政府が出資する台北銀行と富邦銀行の合併案に際し、馬市長は富邦側に不当な便宜を計っていた可能性に指摘した。¹⁸

今回の発表会は兩岸関係が最大のテーマとなったこともあり、発表会終了後も各候補がそれぞれ記者会見を開催して補足説明する場面があった。馬、宋両候補は異口同音ながら、「中華民国憲法に従い、我が国固有の領土は中国大陆地区を含む」と指摘したのに対し、蔡主席は「馬が主張する『92年コンセンサス』（一中各表：ひとつの中国を中台がそれぞれ述べる）は国際社会が認識する『92年コンセンサス』の解釈とは違う」と指摘し、「『92年コンセンサス』と『一中各表』は等しいものではない」と強調するところがあった。¹⁹

総統候補による第二回テレビ政見発表会（12月30日）

12月30日、中央選挙委員会主催による総統候

補の第二回政見発表会が開催された。今発表会では兩岸関係、指導者のクリーン度のほか、政府の情報部門が蔡主席の選挙活動を監視、調査し上層部に報告していた件についても激論が交わされた。

馬総統は、「自身のクリーン度を主張し、また、汚職を監視する政府機関の設置、違法賭博の取締りなどの業績を誇るとともに、「陳水扁政権は最も汚職にまみれた時代であった」と批判した。蔡主席は、「現政府は財閥と中国を厚遇する政策を採用しているため一般庶民が打撃を受けている」と指摘するとともに、「馬総統は自身のクリーン度は主張するが、国民党の党資産の処理と国民党関係者の買収行為を忘れており、不正の責任のすべてを民進党政権に擦り付けている」と批判した。宋主席は「民進党政権を腐敗、現政権を無能」と断罪し、自身が省主席時代に獲得した評価を強調した。²⁰

兩岸関係に関しては、馬総統が蔡主席の掲げる「台湾コンセンサス」の内容について、「納得できる説明がされておらず、空中の樓閣であり、『92年コンセンサス』の受け入れを拒むのは愚民政策である」と指摘するとともに、「台湾は民進党のイデオロギーの実験室になるべきではない」と批判した。蔡主席は、「馬総統の主張する『92年コンセンサス』は、終極的統一を代価としており、現政府が指摘する『ひとつの中国原則』とは『ひとつの中国を、兩岸がそれぞれ述べる』という説明は、国民を騙す行為である」と厳しく批判した。²¹

また蔡主席は、現政権が国家安全局、調査局など情報機関を通じて蔡主席の選挙活動にかかる動向（監視等含む）を調査していた件につき、関連資料の提出を求めるよう馬総統を促した。右要求に対し、馬総統は「関連部局（法務部調査局とされる）に指示したこともないし、関連報告を読んだこともない」と民進党陣営の指摘は根拠のない指摘であると否定した。²²

副総統候補によるテレビ政見発表会(1月2日)

1月2日(注:台湾は出勤、登校日)、副総統候補による政見発表会が開催された。今発表会では、総統候補の代理戦という雰囲気濃厚に表れた。国民党の呉候補は、民進党の蔡主席に対し、「陰鬱、固執、傲慢なお嬢さん(である蔡氏)と正直で温厚な台湾人の性格は合わない」と指摘したほか、民進党の蘇候補に関しては、直接的な名指しを避けながら、「地方の首長を務め、公共事業関連で名と財を成した」と同人のクリーン度に疑義を呈した。一方で馬総統の業績に関しては、兩岸関係の改善と経済発展に寄与したとして再選に自信を見せた。²³ 迎え撃つ、民進党の蘇候補は、蔡主席の人格に対して、「理性的、沈着冷静、多様な意見を凝集する能力に長け、兩岸、国際、財政経済に専門知識を有する国家の最高の指導者である」と賞賛する一方で、「台湾の民主と経済を後退させることはできない、政府の刷新が必要である」と政権交代を訴えた。²⁴ 第三候補の位置付けの林氏は、「国民党、民進党による過去の執政はいずれも経済成長の成果は財閥に与えており、国民の生活は苦しいままである」と両党を批判するとともに、現行の健康保険制度に関し、戸別の総所得に応じて保険料を徴収すべきとの改革案を主張した。²⁵

総統候補による第三回テレビ政見発表会(1月6日)

総統候補による最後の政見発表会が1月6日に実施された。同発表会では兩岸関係、経済政策、蔡主席による「大連合政府」構想などが焦点となった。

兩岸関係に関しては、馬総統は改めて『92年コンセンサス』は兩岸関係の維持に必要な条件であると強調し、民進党は右を承認することを拒絶しているが、かかる態度は台湾を危険な地域に変えてしまう恐れがあり、陳水扁政権の時代に後戻りすることとなり、国民は安心することはできない」と指摘した。馬総統の攻勢に対し、蔡主席は「92

年に兩岸が協議、対話したことは事実であり、兩岸が争議を棚上げにして、対話を行った実務的態度に対し、我々は一貫して肯定しているが、その後に出現した『92年コンセンサス』は、国民党と共産党の認識が違い、台湾社会全体にもコンセンサスがないだけでなく、更に重要なのは民主的手続きを経て確認されたものではない」と指摘し、団結と包容を以った「台湾コンセンサス」を兩岸関係推進の基礎とすべきであるとの主張を強調した。²⁶

今発表会で注目を受けたのは、蔡主席による「大連合政府」構想の提出であった。蔡主席は、「総統当選後の組閣は、勝者が全ての行政資源を独占することはせず、『多極共存型民主体制』(consociational democracy)の精神にのっとり、『大連合政府』を組織し、異なる政党及び各界から優秀な人材を迎え入れ、『団結した台湾』の方向に向かう道を歩む」と強調した。²⁷ 馬総統は右提案に対し「選挙でのパフォーマンスに過ぎない、陳水扁も提案したことがある」と一蹴したが、宋主席は、自身の主張と似ているとして一定の評価を下した。

蔡主席の提案に関しては、「民進党が立法委員選挙での単独過半数議席の確保ができないことを示した」に過ぎず、過去にも「少数与党であった民進党は2000年に陳総統が国民党籍の唐飛国防部長を行政院長に指名し、組閣させたが半年で崩壊した好例がある」など醒めた指摘がある。²⁸ 一方で民進党は、陳其邁副秘書長が『「大連合政府」は議会での過半数を目的とし、多数派を形成するためのものであるが、蔡主席が提案した『大連合政府』は政党間の協議だけでなく、国会との意思疎通、協議、更には社会各界の意見を取り込む幅広いコンセンサスを求め、与野党の国家アイデンティティーにかかる対立点を和らげるものである」として、単なる数合わせ、議会運営のための政策ではないことを強調した。²⁹

「大連合政府」構想は、民進党が親民党との協力関係を模索するものとの解釈も可能であるが、『台湾

コンセンサス』を主張する蔡主席にとっては選挙直前に正式に提出したこともあり、選挙戦にどれだけの影響を与えるかは不明確なるも、国民党が躍起になって批判しているところを見ると選挙戦終盤で民進党と親民党が協力することへの警戒ともとれる。

(2) 企業界の動き：大企業の多くが間接的に馬總統を支持？

2008年以降の国民党政権と民進党政権の最大の変化は、兩岸関係の改善であることは論を待たない。また、たとえ民進党が主張する「主権と経済利益を交換した」との主張に台湾住民の一部が共鳴したとしても、兩岸三通の実現、ECFAの実施などにつき、台湾の経済界は評価し、裨益しているのは事実である。したがって、總統選挙の結果は兩岸関係の行方に対する大きな影響を与えるため経済界にとって選挙後の兩岸関係の動向は最も関心を持つイシューとなっている。今年の秋口から、中国の政府系学者、台湾事務を担当する国務院台湾弁公室関係者から、「兩岸関係の安定には、『92年コンセンサス』の堅持が必要」との発言が聞かれるようになっていたが、12月16日には兩岸交渉の中国側窓口になっている海峡兩岸関係協会の成立20周年記念式典で中国共産党の党内序列4位の賈慶林・政治人民協商会議主席が、行った重要講話の中で「『92年コンセンサス』を否定することは、兩岸協議の継続を困難にし、既に有る協議の成果の実行も困難にし、兩岸関係を傷つけ過去のような混乱と不安の再現となり、最終的には兩岸同胞の利益を損なうことになる」と述べるにいたった。³⁰

中国中央指導部の右発言は、言い換えるならば「92年コンセンサスを否定する民進党政権が登場したら、兩岸関係は中断するだけでなく、ECFAははじめ過去3年に合意された協定の履行は困難になり、兩岸関係の緊張を高めることになる」と警告したものと解釈できる。

かかる中国の意向を受けてか11月以降、台湾

の企業界には「92年コンセンサス」支持の声が高まった。11月23日、台湾の六大工商団体が共同開催した、「台湾経済発展フォーラム」で馬總統と蔡主席はともに招待され、講演を行い、企業関係者から多くの質問を受けたが、蔡主席は兩岸関係の鍵となる「92年コンセンサス」の存在を改めて否定するとともに、「台湾内部の兩岸関係にかかる共通認識を凝集させた『台湾コンセンサス』を以って中国と対話を求めていきたい」との従来の主張を繰り返したが、企業界は蔡女史当選後の兩岸関係の行方に対する不安はぬぐいきれなかったと報じた。³¹

12月以降、台湾を代表する企業家の馬總統再選支持表明が相次いだ。まず、台湾の大手電子機器メーカーで中国で富士康集団を経営する郭台銘・鴻海集団(FAXCON) 総裁が、高雄の自社ビルの開所イベントに馬總統が出席した際、記者に対し「国家経済の発展には『熟練した操舵手が必要』として、馬總統が引き続き指導することを望む」として、馬總統の再選支持を表明した。³² 同社は台湾において株価はじめその動向が常に注目される代表的な企業である。2週間後に、同総裁は自身の専用機を利用し、台中、高雄、澎湖島に赴き、国民党籍立法委員候補などの選挙活動に出席し、彼らへの支持を訴えるなど、行動を以て国民党支持を打ち出した。³³

次に、台湾最大の民間企業である台湾プラスチック集団の総裁である王文淵氏が、同社の工場のある雲林県で企業幹部との会食の席で「『92年コンセンサス』の基礎の上に兩岸の良好な交流を拡大する」、「『92年コンセンサス』に対する態度を次期總統選挙で誰に投票するかの基準とする」と発言し、明白に誰を支持するとの明言はなかったものの、「92年コンセンサス」の堅持を重要な政見としている、馬總統の再選支持を表明したと報じられた。³⁴ 同社の創設者であった故王永慶氏は、政治的な話を極力避けるなど政治的には保守

的な社風と見られてきたが、今回は兩岸関係を改善した現政権の支持を明白に打ち出した。

馬總統は12月6日にエバグリーン総裁の張榮發氏と昼食をともにし、国際関係と人道援助につき意見交換をしたと報じられた。張総裁は3月の東北大震災の際に10億円もの義捐金を贈り日本でも大きく報じられた人物である。馬總統は張総裁が東北大震災、四川大地震に対して多額の寄付を行ったことを賞賛した一方で、張総裁も馬總統が兩岸関係を改善し、日台関係に対する努力と成果を肯定したと報じられた。³⁵ 直接的な支持表明はなかったものの、選挙直前のこの時期の馬總統との会談に関し、エバグリーン関係者は、総裁が馬政権の業績を評価したことは、馬總統への支持表明と解釈することは可能だと述べた。その後、年明けの1月3日に、張総裁はマスコミ関係者との茶話会で「『92年コンセンサス』は兩岸関係の基礎であり、右があってこそ安定するのであり、(蔡英文主席が主張する)『台湾コンセンサス』は、独立の意思である」、「『92年コンセンサス』がなければ、台湾経済は凄惨(ひどい)なことになる」として、「92年コンセンサス」を否定する蔡主席を批判するとともに、馬總統の再選を支持したと報じられた。³⁶

1月5日には、徐旭東遠東集団総裁が、「台湾経済と平和は冒険することはできない、誰を選ぶかは、最も冒険をしない人物である」と強調したほか³⁷、かつては本土派企業とみなされた奇美実業の廖錦祥会長は、電話での取材に対し「兩岸は『92年コンセンサス』に基づき、引き続き平和的な交流の発展を維持することが望ましい」と事実上の馬總統支持を表明した。³⁸ 相次ぐ、企業関係者の「92年コンセンサス支持」という表現を通じての馬總統再選支持表明の流れに対し、追い込まれた蔡主席は、1月5日の選挙キャンペーンの席で「最近多くの財閥が馬支持を打ち出し、馬の再選こそ台湾が安定すると主張しているが、馬と中国、(台

湾の)財閥は一緒になって台湾住民に対して『92年コンセンサス』を受け入れさせようと圧力を加えているが、これこそ台湾の不安定な原因であり、馬總統こそが台湾が不安定になる根源である」と批判した。³⁹ 表2は台湾の企業家による馬總統支持にかかる関連発言を整理したものである。これらの発言は、中国政府、現政権の主張に呼応するものであり、企業界の本音である「政治よりもビジネスが大事」ということなのかもしれない。

(3) 世論調査の動向

筆者が比較的引用する『聯合報』、『TVBS』の支持率調査では馬が一貫してリードしている(表3)。地域別支持率も南部は民進党VS北部、中部、離島及び東部で国民党という構図も過去の選挙と大差はない(表4)。また『TVBS』が実施した「予測得票率」⁴⁰は、2011年11月時の調査では蔡が馬を1.5%上回る結果であったが、2012年1月上旬の調査では馬が蔡を3%上回る結果となるが誤差範囲内であり、予断を許さない状況となっている。一方で政党も独自の世論調査の結果を公表した。

民進党の陳俊麟世論調査センター主任は、1月3日に記者会見を開催し、総統選挙にかかる調査の結果を発表した。同主任によると最後の1ヶ月の選挙情勢の評価は、蔡主席が1%の僅差ながら馬總統をリードし、その差は約10-15万票であると指摘した。⁴¹ 具体的な地域情勢としては、大票田の台北、新北市での劣勢を25万票以内に抑える一方で雲林以南地域では約75万票リードしていると強調した。また同党が実施した調査は11月中旬から12月下旬まで、69の選挙区において調査が行われ、サンプルは7万以上集め、「投票意向」、「政権交代」などの指標の係数を掛け合わせ修正した推測に基づくものであると説明した。

一方、国民党陣営は、独自の世論調査は内部参考用として対外的に公表しないとしながらも、漏れ伝えた国民党版の世論調査によると南部で苦戦

表2 台湾企業家による馬總統支持発言の一覧表

企業家	関連発言の内容
東元集団・黄茂男	日台投資協議、活路外交は相当な成果があり、経済貿易関係は着実に突破しており、今こそ良い契機であり、チャンスをつかむべき。
鴻海集団・郭台銘	馬總統は経験ある操舵手であり、皆に安全な投資環境を与えている。
潤泰集団・尹衍樑	兩岸平和の維持、経済の繁栄を促進する。
正崴集団・郭台強	台湾は外に出て行かねばならない、鎖国することはできない。
台達電・鄭崇華	国民党が下野後再び政権復帰し、改進黨後、また政権交代するというのであれば、新リーダーは十分な経験を有しているのか？
裕隆集団・嚴凱泰	台湾が更に良くなることを望む、台湾が次のフィリピンになることを望まない。
創意工廠・李開復	馬英九氏は高尚で尊敬に値するクリーンな人物であり、強烈な使命感を有しており、馬氏のクリーンさと業績は、信頼に値する。
遠東集團・徐旭東	馬總統が兩岸平和協議の締結条件を持ち出したが、その説明は非常に詳細であり、台湾には長期的視野が必要である。
長榮集團・張榮發	92年コンセンサスは、兩岸対話の基礎であり、最も重要なのは国民生活の安定であり、右がないと台湾経済は悪影響を受けることになるであろう。

資料元：「支持九二共識 企業家相繼挺馬」『中国時報』（2012年1月4日）頁2。

表3 『聯合報』による總統候補の支持率調査

調査日	馬英九呉敦義ペア	蔡英文蘇嘉全ペア	宋楚瑜林瑞雄ペア	未決定
11.9-12	41%	36%	9%	13%
11.24-27	41%	35%	10%	14%
12.3	39%	32%	10%	17%
12.10	40%	30%	10%	20%
12.9-12	42%	35%	10%	13%
1217	41%	33%	10%	15%
1228-102	44%	36%	7%	13%

資料元：「聯合報民調 副手弁才呉40蘇30林9」『聯合報』（2011年12月11日）頁1等を整理。

しているほか、彰化、南投中部以北は10%以上のリードをしており、全体でも得票率で約10%リードしているとしている。⁴² 当方夜の政治討論番組では、ある評論家が「両党とも自身の選挙情勢を楽観しすぎていないか、足して割るくらいがちょうど良いのではないか」という冗談めいた発言があったことを記しておく。また、立法委員選挙にかかる政党支持の調査では、国民党支持4割、民進党支持3割の趨勢に大きな変化はなく、国民党が第1党の座を確保する可能性は高い。(表5)

僭越ながら、筆者による2012年1月上旬段階での評価としては、「台湾住民の多くは馬政権に

不満を有しているが、政権交代を望むほどの大きな風は感じない。あえて言うならば、2000年、2008年に感じた政権交代という予感がしない」ということで馬が辛勝するのではないかという予測である。しかしながら、選挙まで5日を切り、「馬はこのまま逃げ切れるのか」と大きな疑問が沸いていることも指摘させていただきたい。

2. 立法委員選挙関連

(1) 国民党による比例区候補者リストの公表

11月16日、国民党は立法委員選挙にかかる比

表4 『聯合報』による総統候補の地域別支持率調査

	11月9-12日			11月24-27日			12月28-1月2日		
	馬呉	蔡蘇	宋林	馬呉	蔡蘇	宋林	馬呉	蔡蘇	宋林
全体	41%	36%	9%	41%	35%	10%	44%	36%	7%
北北基	43%	36%	9%	44%	33%	10%	46%	35%	7%
桃竹苗	48%	27%	10%	44%	32%	12%	53%	32%	5%
中彰投	35%	40%	10%	45%	25%	11%	47%	31%	7%
雲嘉南	36%	41%	11%	29%	45%	8%	32%	44%	9%
高屏澎	37%	40%	8%	37%	44%	7%	39%	42%	6%
宜花東金馬	53%	43%	8%	29%	28%	16%	52%	31%	6%

資料元：「聯合報民調 41：35 馬蔡差距拉大」『聯合報』（2011年11月30日）頁1等を整理。

表5 『聯合報』による次期立法委員選挙政党別支持率の変化

	8,14	9,14	10,15	11,12	1127	12,12	01,02
国民党	37%	38%	39%	40%	40%	41%	40%
民進党	30%	34%	31%	30%	32%	29%	29%
親民党	5%	4%	5%	4%	4%	6%	5%
他政党	2%	2%	2%	2%	2%	3%	3%

資料元：「本報民調 政党票穩定 藍 40% 綠 32% 橘 4%」『聯合報』（2011年11月29日）頁4、
「聯合報民調 藍 40% 綠 29% 橘 5% 政党票變化不大」『聯合報』（2012年1月3日）
頁2等を整理。

表6 TVBSによる総統選挙にかかる予測得票率調査

公表日	馬英九	蔡英文	宋楚瑜
1111	45.8%	47.3%	6.9%
0103	49%	46%	5%

資料元：「選戦/TVBS 最後民調估得票率：馬呉 49 英嘉 46」『中央日報』（2012年
1月3日）http://www.cdnews.com.tw/cdnews_site/docDetail.jsp?coluid=141&docid=101781242 などから引用。

例区名簿を発表した。⁴³ 台湾の立法委選挙は、前回より選挙区候補とともに政党も選ぶ制度となっており、国民党は「清新、改革」のイメージを重視し同名簿には党人以外の専門家、社会的に声望のある人物を起用した。同党文化伝播委员会主任委員の莊伯仲氏は、「今回の名簿リストの内新人が半数を超えており、省籍、地域のバランス、弱者、専門性、育成、伝承の特色を有している」として見栄えのする名前が並んだと評価した。翌日

の各紙朝刊も当選圏内とされる18位以内に現職は6名しかおらず、学术界、文化界など各界を代表する人材がそろったとして、民進党の上位10名のリストのうち9名が政治関係者が占めたことと対比して好意的な評価をした。⁴⁴ 2005年の党主席選挙で馬に敗れたもののその後も「本省人の重鎮」としての地位を維持している王金平立法院長は、従来の国民党の党規では比例区は二期までという規約に例外条項を設け、名簿のトップに掲載

された。一方、王院長と同様に比例区選出の曾永権副院長は、規定通り、比例区名簿には載らず、別の処遇がされる見込みであることを記しておく。

19日に中央委員会を主催した際に馬主席は、メディアの反応を引用しつつ、国民党の比例区名簿に対しては45%が肯定し、民進党の同名簿に対して14%しか肯定しなかったことと比べて際立ったとして評価した。⁴⁵

民進党は蔡主席が、今回のリストには弱者を代表する人物が入っていることに関し、一定の評価を下す一方で、康裕成報道官は「当選圏内の17名の内12人が政治的背景のある人部とした上で、17位以下のリスト掲載人物は汚職等で裁判沙汰になった人物か或いは親族がおり、地方派閥とのつながりを示したもの」と論評した。⁴⁶ 民進党は、6月という早い段階で比例区名簿を公表したが、当選圏内のほとんどが現職元職の立法委員、政務官に占められたこともあり、「党内派閥均衡リスト」と揶揄されたほか、社会的にも不評を買っただけでなく、党内にも不協和音を奏で、蔡主席の指導に疑義の目が向けられたことは記憶に新しい。その点、国民党のリスト上位には、清新で党派色のない人物が指名されたこともあり、国民党の「改革」の意気込みを一部示すものとなった。

(2) 他の小政党の動き

「国民党の議席減、民進党の議席増」という趨勢が固まる中、小政党は比例区で議席獲得に必要な5%という得票率を目指し凌ぎを削っている。前回選挙では国民兩大政党の戦いに埋没したため、過去に議席を有していた新党、台湾団結聯盟は3%台の政党得票率を獲得したものの議席獲得はならなかった。

前回の選挙では多くの現職委員が国民党に入党し選挙区から出馬した親民党は、宋主席の総統選出馬、独自候補の擁立もあり、世論調査では5%前後の支持率を得ており、比例区議席の獲得が有

力視されている。また新党、台聯はそれぞれ、総統選挙では馬総統、蔡主席支持を明言しており、「藍軍」、「緑軍」の位置づけに変化はないが、比例区議席で獲得するのは困難な様子である。⁴⁷

ここでは親民党の動向に触れたい。2011年春先から、同党の動きは注目されてきたが、筆者自身もその目的は、立法院で一定の議席を獲得し、議会運営、立法過程で影響力を行使することにあると指摘してきた。宋主席の総統選出馬の最大の目標は、「国民党への報復」、「馬を引き摺り下ろすこと」などのうがった見方もあるが、同党関係者はいかなる説明を支持者にしているのだろうか。元立法委員の李桐豪、台北市議の黄珊珊は、同党関係者の座談会で「親民党は政権奪回のために前回の選挙で国民党に協力したが、現政権は国民の期待に応えていない」と主張し、親民党が議会で国民党政権の施政を監督する必要を強調した。また大学教員の胡祖慶氏は、「国民党政権下での兩岸関係の進展は満足のものではなく、親民党ならば兩岸交流を更に促進させることができる」との主張をしているが、右発言からは、台湾住民の国民党への不満の受け皿になるものといえる。⁴⁸ なお、同党は金門、平地及び山地原住民選挙区に現職、前職委員がおり、当選の可能性ありと指摘されている。⁴⁹

台湾住民の中には、「民進党は嫌だが、国民党にも不満」（その逆も然り）と考える者が一部存在するのは事実であり、これらの票をいかにして掘り起こせるかが親民党はじめ小政党の生存にかかわってくる。

4. 日台民間航空維持に関する取り決めの締結

11月10日、日台双方の代表機関である交流協会と亜東関係協会は台北で航空業務の維持に関する書簡を交換した。⁵⁰ 台湾では台日オープンスカイ（開放天空）と呼ばれる同取り決めの主な合意項目は以下の通りである。

(1) 首都圏空港関連路線を含む日台間のオープンスカイの実現(成田空港に関しては2013年夏を予定)(2) 2013年夏以前においても成田空港における増便を実現(3) 就航航空会社規制数及びチャーター便枠の撤廃(4) 首都圏空港以外の空港について、相手側で旅客、貨物を載せ、第三国へ輸送することが可能(以遠権)(5) 羽田空港の深夜便と台湾間の週7便の就航実現。

台湾外交部は同日の記者会見で「同取り決め締結後、日台はオープンスカイの時代を迎え、2010年4月に双方で取り決めた覚書における協力項目の実施であり、台日双方国民の観光が更に簡便化され、観光の発展を促すと同時に物流、貿易の往

来を増進させ、台日関係のさらなる発展に有利な環境を作り出す」として歓迎の意向を示した。⁵¹

また楊進添外交部長は、「今回の取り決めは9月22日に投資取り決めに締結した同日に、調印していたが、日本側が内部で議論する余地があるとして条文の交換にはいたらなかった」という交渉裏についても言及した。⁵²『自由時報』によると、今取り決めに関し、台湾の航空会社は概ね歓迎し、中華航空は東京、大阪、福岡、名古屋路線の増便に加え、鹿児島、静岡などの新路線の開設を考慮していると報じられた。また従来はチャーター便の就航だけであった復興航空は、定期便の開設を予定していると報じられた。⁵³

- 1 中央選挙委員会ホームページ「中選會審議通過第13任總統副總統選舉候選人資格」(2011年12月) <http://web.cec.gov.tw/files/15-1000-16581.c3383-1.php>
- 2 「陳盈助 兩元柿 搬上台 馬蔡互攻邊回防 宋左右開弓」『聯合報』(2011年12月4日) 頁1。
- 3 同人の總統選挙の出馬は政党推薦ではなく、無所属候補として出馬している。
- 4 雑誌『壹週刊』は、馬總統が地価賭博の胴元であると指摘された同人と会い、政治資金の提供を求めたなどと指摘したが、馬陣営は事実無根であるとして、国民党が同雑誌を馬總統が民進黨をそれぞれ告訴した。以下を参照、中国国民党ホームページ「針對壹週刊不實報導及民進黨捏造不實謠言提起訴訟」(2011年11月21日) <http://www.kmt.org.tw/hc.aspx?id=32&aid=6632>
- 5 「馬蔡表面尊宋 棉裡藏針不理宋」『聯合報』(2011年12月4日) 頁4。
- 6 民主進歩党ホームページ「首場電視辯論會圓滿落幕 蔡英文：當選後將與馬總統、宋主席進行會談 凝聚共識」(2011年12月3日) http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn=5760
- 7 「吳攻扁 蘇打馬 麟批藍綠惡鬥」『聯合報』(2011年12月11日) 頁1、「副手辯論會 蘇、吳捉對廝殺 林批藍大綠」『自由時報』(2011年12月11日) 頁1。
- 8 「聯合報民調 副手弁才吳40 蘇30 林9」『聯合報』(2011年12月11日) 頁1。
- 9 「2012總統大選副總統辯論會後民調」『TVBS』(2011年12月10日) http://www1.tvbs.com.tw/FILE_DB/PCH/201112/7j2bt7844x.pdf
- 10 同上。
- 11 「字呂案火藥庫 雙英激辯 宋喊稍息」『聯合報』(2011年12月18日) 頁1、「字呂案激辯 馬駁政治追殺說：若有退選」『中国時報』(2011年12月18日) 頁1、「電視辯論 馬追打字呂 蔡痛心官員配合」『自由時報』(2011年12月18日) 頁1。
- 12 「打房搶票 蔡英文：一年內提實價課稅」『蘋果日報』(2011年12月18日) 頁1。
- 13 「馬蔡宋辯論表現比較」『聯合報』(2011年12月18日) 頁1、「這次誰辯得好 32%垮蔡 29%讚馬」『中国時報』(2011年12月18日) 頁1。
- 14 「終辯支持度 馬贏蔡8個百分點」『聯合報』(2011年12月18日) 頁1、「本報最新民調 藍綠差約1%馬蔡平手了」『中国時報』(2011年12月18日) 頁1。
- 15 「民調差很大 藍參考 綠自信 橘不信」『聯合報』(2011年12月19日) 頁1。
- 16 「電視政見會 蔡馬宋三輪攻防 撞出火花」『自由時報』(2011年12月24日) 頁1、「首場總統政見會 安心牌 vs 穩定牌 兩岸攻防 馬蔡砲火猛烈」『聯合報』(2011年12月24日) 頁2、「雙英對嗆 麻辣超越辯論」『中国時報』(2011年12月18日) 頁2。
- 17 「馬：綠營執政 兩岸緊張」『中国時報』(2011年12月24日) 頁2、「蔡：馬若連任 終極統一」『中国時報』(2011年12月24日) 頁2。
- 18 「蔡批打人喊救人 馬：別害怕檢驗」『聯合報』(2011年12月24日) 頁4。
- 19 「馬宋表遵憲 蔡斥馬愈扯越遠」『自由時報』(2011年12月24日) 頁2。
- 20 「蔡攻防情蒐監控 馬說摸黑」『自由時報』(2011年12月31日) 頁1。

- 21 「九二台灣共識蘇嘉全：蔡理性冷靜」『中国時報』（2012年1月3日）。
- 22 「情治監控？蔡籲查扣證據 馬嗆胡亂指控」『自由時報』（2011年12月31日）頁2。
- 23 「吳：千金小姐 就可裁臧人嗎」『聯合報』（2011年1月3日）頁5、「吳敦義：蔡陰沉固執」『中国時報』（2012年1月3日）頁5。
- 24 「蘇嘉全：蔡理性冷靜」『中国時報』（2012年1月3日）頁5、「蘇：台灣經濟 絕不能倒退嚕」『聯合報』（2011年1月3日）頁5。
- 25 「林：兩黨執政 利潤都給財團」『聯合報』（2011年1月3日）頁5。
- 26 「馬批蔡人民當白鼠」『聯合報』（2011年1月7日）頁1。
- 27 「蔡拋組大聯合政府」『聯合報』（2011年1月7日）頁1。
- 28 「藍：預告綠國會不過半」『聯合報』（2011年1月8日）頁2。
- 29 「大聯合政府 綠：非唐飛模式」『中国時報』（2012年1月8日）頁2。
- 30 海峡兩岸關係協會ホームページ「賈慶林：在海協會成立20週年紀念大會上的講話」（2011年12月19日）http://big5.chinat taiwan.org/gate/big5/www.arats.com.cn/yw/201112/t20111219_2217617.htm
- 31 「蔡否認92共識 企業界憂心」『聯合報』（2011年11月24日）頁1。
- 32 「郭董挺馬：國家經濟需『熟練舵手』」『聯合報』（2011年12月2日）頁3。
- 33 「首富撩落去 郭台銘助選 搭專機日跑3攤」『中国時報』（2011年12月15日）頁2、「獻出第一次…郭台銘為顏清標站台」『自由時報』（2011年12月15日）頁6。
- 34 「王文淵表態 挺九二共識、ECFA」『聯合報』（2011年12月29日）頁4。
- 35 「共進午餐 張榮發肯定政績 對馬說加油」『聯合報』（2011年12月8日）頁3。
- 36 「首度公開表態 張榮發：沒九二共識 台灣經濟會很慘」『中国時報』（2012年1月4日）頁1。
- 37 「徐旭東比v：選不冒險的人」『聯合報』（2012年1月6日）頁3。
- 38 「林佳龍岳父：經貿對台有利」『聯合報』（2012年1月6日）頁3。
- 39 「蔡：馬、財團與中國聯手」『自由時報』（2012年1月6日）頁4。
- 40 アンケートでの未回答者に関しても、彼らの省籍、過去の投票行動、性別、学歴等多様の変数を加味してこれらの有権者がどの候補に投票するかを予測する。
- 41 民主進歩党ホームページ「民進黨民調：蔡英文領先馬英九1%・差距約10~15萬票」（2012年1月3日）http://www.dpp.org.tw/news_content.php?sn=5944
- 42 「得票率推估 馬49% 蔡46% 馬贏40萬」『YAHOO 奇摩新聞』（2012年1月3日）<http://tw.news.yahoo.com/%E5%BE%97%E7%A5%A8%E7%8E%87%E6%8E%A8%E4%BC%B0-%E9%A6%AC49-%E8%94%A146-%E9%A6%AC%E8%B4%8F40%E8%90%AC-014844886.html>
- 43 中国国民党ホームページ「回應社會期待 國民黨不分區名單專業、育才、傳承！」（2011年11月16日）<http://www.kmt.org.tw/hc.aspx?id=32&aid=6616>
- 44 「不分區名單比好不比爛 綠充斥政客 藍向上提升」『聯合報』（2011年11月17日）頁3。
- 45 中国国民党ホームページ「馬主席肯定不分區立委名單 彰顯照顧弱勢決心」（2011年11月19日）<http://www.kmt.org.tw/hc.aspx?id=32&aid=6623>
- 46 「蔡也肯定『國民黨想到弱勢』」『聯合報』（2011年11月17日）頁3。
- 47 「觀察站 藍綠拚過半 國民黨絕對優勢不再」『聯合報』（2011年11月26日）頁4。
- 48 「思想者論壇 親民黨的發展動向與影響」『中国評論』2011年11月号、頁76-84。
- 49 「親民黨 寄望離島、原住民開紅盤」『新新聞』（2011/12.22-12.28/1294期）頁37。
- 50 交流協會ホームページ「民間航空業務の維持に関する交換書簡」（2011年11月10日）
[http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/Top/409739A96895B1D5492579430032B84C/\\$FILE/%E8%A8%98%E4%BA%8B%E8%B3%87%E6%96%99%EF%BC%88%E8%88%AA%E7%A9%BA%E6%9C%80%E6%96%B0\).pdf#search='民間航空業務維持に関する取り決め'](http://www.koryu.or.jp/taipei/ez3_contents.nsf/Top/409739A96895B1D5492579430032B84C/$FILE/%E8%A8%98%E4%BA%8B%E8%B3%87%E6%96%99%EF%BC%88%E8%88%AA%E7%A9%BA%E6%9C%80%E6%96%B0).pdf#search='民間航空業務維持に関する取り決め')
- 51 外交部ホームページ「亞東關係協會與日本交流協會完成「台日航約」修約換文」（2011年11月10日）<http://www.nownews.com/2011/11/10/301-2756864.htm>
- 52 「台日航約 日『開放天空』飛東京增班」『聯合報』（2011年11月11日）頁1。
- 53 「台日開放天空換約 飛日班次、航點更多」『自由時報』（2011年11月10日）。<http://iservice.libertytimes.com.tw/liveNews/news.php?no=566052&type=%E7%94%9F%E6%B4%BB>